

# 園地の春まき草生栽培

## 果樹園と草生

果樹園は傾斜面が多く、清耕栽培では、土壌の流亡が非常に著しいものです。肥沃な表土と肥料成分を流してしまふのは勿体ないことです。

雨季の土壌侵蝕を防ぐために、春まき草生栽培を行います。

### 1 草生栽培の利点

1 土壌、肥料の流失を殆ど完全に防ぎます。

### 2 マルチング(敷藁栽培)の役目を

果し、早害を防ぎます。(牧草を刈取つて果樹の根元へ敷草)

### 3 肥料効果と土壌効果

敷草と牧草の根は有機質肥料となり、また、マメ科牧草の根は空気中の窒素を固定して土壌に与え、イネ科牧草の根は土壌を団粒化して理化学性を向上させる働きをします。

### 4 自給飼料の生産

草生栽培のもう一つの目的は、果樹園経営の収益を高めるために、園地と酪農とを結びつけ、刈草または放牧により、自給飼料を得ることにあります。



草生栽培(ペレニアルライグラス)

く土地を被覆してくれる作物が必要です。左表をごらん下さい。

果樹にはいろいろの薬剤を散布しますが、パラチオン剤は二週間、その他の薬剤では一週間たてば、飼料として差支えありません。

## 桑園と酪農

桑園に飼料作物を間作栽培し、養蚕と酪農とを結びつけた。集約的な経営が行われています。

桑の畦幅を一・五呎ぐらいの広幅、または寄畦にし、桑量はいくら減少しますが、桑質がよくなり、飼料の収穫を合せ考えると、総合的に桑園の収益向上になります。

### 桑園の間作例

○ベッチまたはエンドウ(三月〜六月)

→青刈デントコーン(六月〜九月) →

○エンバクまたはレープ(三月〜六月)

→青刈大豆(六月〜九月) →

### ○牧草(周年)

牧草の下草栽培は、日陰のため草質がよく、夏枯れも少く、家畜は非常に好んで食います。広幅の帯状に混播栽培するのが、管理上、給餌上望ましい方法です。

## 園地の草生栽培に用いる牧草

草種	利用年限	草姿	刈取回数	収量(キ)	播種期	播種量(キ)	施肥量(キ)
赤クロバ	二〜三年	上繁草	三〜四	六、〇〇〇	三月上旬〜四月中旬	一・〇	厩肥一、五〇〇
ラデノクロバ	永年	下繁草	六〜八	一〇、〇〇〇	同	〇・五	硫酸一五
クリムソクローバ	一年	上繁草	一〜二	五、〇〇〇	同	一・五	過石二五
サブクロバ	一年	下繁草	二〜三	四、〇〇〇	同	一・五	硫酸一五
ペッチ	一年	纏絡草	一〜二	四、〇〇〇	同	四・〇	硫酸一五
イタリアンライグラス	一年	上繁草	三〜四	七、〇〇〇	三月上旬〜四月中旬	一・〇	厩肥一、五〇〇
ペレニアルライグラス	二〜三年	同	四〜五	五、〇〇〇	同	一・〇	硫酸二五
オーチャード	永年	同	四〜五	六、〇〇〇	同	一・〇	硫酸一五

## 磷欠土壤に花咲く

### クリムソクローバ

クリムソクローバとは、真紅の花をつけたクロバを意味し、赤い苺の実のような、美麗な花を咲く、変つたクロバです。

火山灰のような、磷酸分が欠乏した土壤にも良く生育し、開墾地、瘠地の一年性牧草として用いられ、また、日陰に強いので、果樹園、桑園、茶園の下草として、被覆兼緑肥用に価値高い牧草です。

### 自分で種子をまく サブクロバ

白い花が咲いた後、自分で種子を地中に埋め、翌年のために種子を植えつける一年性のクロバです。



サブクロバ